

郷土資料館だより

Vol.29. No.3

2007.3.31



小出正吾氏・五所平之助氏 自筆原稿

三島生まれの児童文学者小出正吾氏と、三島に長年住んだ映画監督の五所平之助氏の自筆原稿が寄贈されました。三島を愛し三島のために尽くしたお二人の原稿は、三島の様子がわかる貴重な資料です。その一部を紹介します。

小出正吾氏「ジンタと三島」

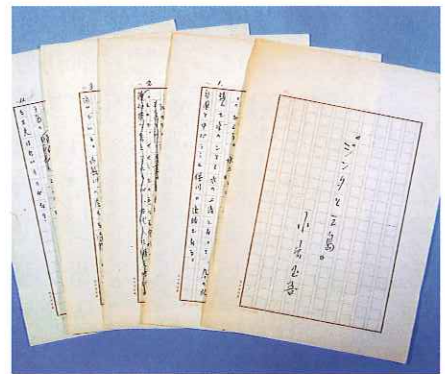


「せせらぎの音は子守唄のようなものだった。川のホタルは家の中まで飛んできた。水上の岸べは男女の子ども河童で賑わっていた。その付近には、およそ十個ばかりの水車があって、朝から晩までコットン、コットン……米をついていた。(中略)

御殿川へ落ちる通称『どんどん』の水門のあたりが最高の見どころで、そこでは逆さ富士を眺めることが

できたし、アヒルの群がゆうゆうと泳いでいた。

芹田の畔に五万なんぼといたい三島傘が花が咲いたように干されていた。(以下略)」



小出正吾氏「ジンタと三島」

五所平之助氏「古きよき時代のレトロな三島」



「東京から新幹線で帰ってきて、三島駅の夜のプラットフォームに降りると、私は生き返ったようにホッとする。

空気がキレイでオイシイ、都会の汚れたものを早く吐き出してしまい、伊豆のウマイ風をたっぷりと吸い込んで、生き甲斐を感じる。この時ほど三島に住んでいて本当によかったと思う。清澄な大気と美しい湧水に恵まれたこの町の住人である幸福感と詩的な陶醉に浸れるのである。(以下略)」



五所平之助氏「古きよき時代のレトロな三島」

山本玄峰老師書「清風明月同一家」

東京都調布市にお住まいの松浦修氏から「白隠の再来」と呼ばれた名僧・山本玄峰老師書「清風明月同一家」が寄贈されました。これは、松浦氏の師が玄峰老師から「今朝気持ちがよく書けた」と言われ、いた

だいたものさそうです。

また、松浦氏によれば「清風明月同一家」とは禅で「悟り」のことを「本地の風光」と言い、その風光の清風と明月が家の中に入ってきて、家人と渾然一体となるという意味に受け取れるのではないかとおっしゃっていました。風になった気持ちで、月になった気持ちで書かれた玄峰老師の気持ちが伝わってくる書です。



山本玄峰老師書「清風明月同一家」94歳

企画展「三島と女性—歴史の中の女性たち—」開催中

●開催期間 平成19年3月18日(日)～平成19年5月27日(日)

「元始、女性は実に太陽であつた。真正しんせいの人であつた。今、女性は月である。他に依つて生き、他の光によつて輝く、病人のやうな蒼白あおしろい顔の月である。偕ともてこゝに『青鞆』は初声うぶごゑを上げた。女性のなすことは今は只嘲あざけりの笑を招くばかりである。私はよく知つてゐる、嘲あざけりの笑の下に隠れたる或るものを。

そして私は少しも恐れしかない。併し、どうしやう女性みづからがみづからの上に更に新しんにした羞恥しゆうぢと汚辱いたたましさを。女性とは斯くも嘔吐おうとに価するものだろうか、否々、真正の人とは」（『青鞆』創刊号より）

これは明治44（1911）年、女性の手だけによって編集された文芸誌『青鞆』の中で平塚らいてう（雷鳥）が述べた創刊の辞です。当時盛んに叫ばれてゐた女性解放に対する熱い想いが文脈を通じて伝わってくるようです。実は、この言葉どおり古来より女性の活躍には目覚しいものがありましたが、近世の封建制確立などの影響もあり、残念ながら女性の歴史にスポットがあてられることは最近まであまりなかったと思われます。

本企画展では三島に関わる女性の歴史を、原始古代・中世・近世・近代・現代の5つに分け、それぞれの時代で活躍した女性や様々な事象について取り上げながら女性の歴史を概観します。また、三島北高校をはじめとする三島の女学校についても展示で紹介しています。

この他、「男女共同参画社会の実現をめざして…」というテーマを設定し、これからの男女共同参画社会を推進するための一助となるよう、図表を使いながら分かりやすく解説しています。



『青鞆』（復刻版・龍溪書舎）
表紙（静岡県立中央図書館蔵）



三島市出土の土偶



北条政子木像
（安養院蔵）



江戸時代の女訓書
『女大学宝箱』
（勝又基氏蔵）



大正頃の三島高女体操服

山の神

三島市竹倉たけくらの山を所有している川口さんは、毎年1月4日の初山はつやまの日に山へ入り山の神様を祭っています。今年も例年通り、山の入口のいつもの木の根元に注連縄しめなわを張り、アクシバかがみもちや鏡餅、みかんなどをお供えしました。

昔から、山には恐ろしい神が宿ると考え、畏れ敬い、お祭りしてきました。最近おまは川口さんのように山の神様をお祭りしている山は見かけなくなりましたが、今でも危険が伴う山仕事の無事を祈る信仰が続けられています。



ふるさと歴史文学コーナー「古典文学の中の三島」開催中

- 開催期間 平成19年2月8日(木)～5月上旬
- 監修 勝又 基氏(明星大学日本文化学部講師)
- 共催 明星大学日本文化学部
- 会場 ふるさと歴史文学コーナー(本町タワービル4階)

三嶋明神(三嶋大社)を擁し、交通の要所でもあった三島の地。ここでは頼朝が挙兵し、芭蕉が句を詠み、弥次さん喜多さんが珍道中をくりひろげるなど、古くから歴史と古典文学の舞台となって来ました。今回の企画展ではこうした古典文学の中の三島について展示しています。

展示の目玉の一つは、今まであまり知られてこなかった三島の古典文学を紹介する事です。その中でも伊豆佐野・勝俣家に伝わる『久根郷古蹟新談』は新出の写本小説です。その内容は、乙女という美しい娘が父親の没したあとにその弟夫婦からいじめを受けるというお話です。乙女は世をはかなんで自ら身を投げますが、最終的にはいじめていた弟夫婦もひどい報いを受けます。

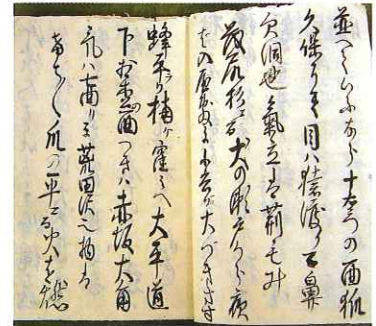
読んでみて興味深いのは、このストーリーが久根郷(現在の裾野市久根)の地名に関する由来譚になっている事です。主人公の乙女が身を投げたのが乙女が淵、意地悪な松に雷が落ちた場所が雷松などという地名は、この小説の登場人物にちなんで名付けられたと言うのです。

作者は記されていませんし、製本も簡単なものなので、まだ原稿のような段階の本だったのではないのでしょうか。

このほか、三島を舞台にして描かれた江戸小説『飯糰水千貫樋』など、歴史・文学に詳しい方にも新たな発見がある展示となっています。

また今回の展示は明星大学との共催により、同大学日本文化学部の学生が調査・展示を行いました。中世の女性紀行文『とわずがたり』や、十返舎一九の戯作『東海道中膝栗毛』といった有名な作品も、学生らしいアイデアによって新たな一面を見せてくれる事になると思います。中でも三嶋大社のウナギ伝説を下敷きにした絵本は見ものです。お子様にもぜひ楽しんでいただければ幸いです。

なお最後になりましたが、今回協力してくださった森澤多美子(富士見高校教諭)倉島利仁(静岡学園高校教諭)大山珠希(立教大学)の各氏にこの場を借りてお礼申し上げます。



新発見の写本小説『久根郷古蹟新談』



『諸国道中金の草鞋』(十返舎一九)の現代語訳



うなぎの絵本



瀧の本
連水掲載句集



展示を担当した
メンバー

〈展示に参加した明星大学のメンバー〉

石見祥子(実習指導員) 大田晶太郎(3年) 山本真千(3年) 相田高宏(2年) 赤堀文香(2年)
金原彩乃(2年) 久保村英明(2年) 田中優子(2年) 山中梢(2年)

企画展「三島ゆかりの芸術家たち」報告

- 開催期間 平成18年11月3日（金）～平成19年1月28日（日）
- 入館者 11,695人（74日間）

郷土資料館開館35周年を記念して、三島市の所蔵する芸術作品の中から郷土を代表する7人の芸術家（栗原忠二・下田舜堂・細井繁生・高梨静滯・杉本英一・芹沢晋吾・野口三四郎）を紹介しました。また、特別展示として昭和35年の三島市役所庁舎落成記念に寄贈された絵画7点と、石井伯亭の描いた「小浜池」ほかを展示しました。

絵画については、生涯学習センターで展示されているものを除き、普段は小・中学校や市役所会議室などに飾られているものも多く、こうした作品は通常目に触れる機会がほとんどありません。このため、来館者の方からも概ね好評を得る事ができました。

今回は三島市の所蔵する作品に限定して紹介しましたが、今後はそれぞれの作家・作品あるいは今回取り上げることのできなかつた作家について詳細な調査研究と企画展示が開催できればと思います。



石井伯亭『小浜池』など



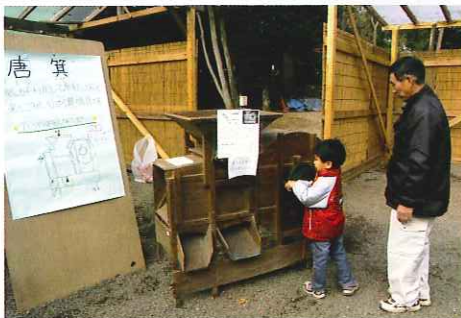
ギャラリートークの様子

郷土教室「餅つき体験」報告

- 平成18年12月23日（祝） 1回目10:30～ 2回目14:00～ 参加者100人

楽寿園と共催で「レトロな遊び場」を開催し、ワンコーナー「昔の道具」を郷土資料館が担当しました。餅つき体験をメインに行い、背負子、石臼、唐箕を展示し、自由に使用してもらいました。

餅つき体験参加者は各回とも20名前後の参加者で、対象者は楽寿園の入園者です。参加の子供は小学生低学年以下がほとんどで、一人で杵を持たないため、館学芸員が補佐しました。初めて杵を持つ子供は、重たいのにとってもびっくりしていました。ついたお餅はその場でお汁粉にして、各回50名に配布しました。ついたてのお餅はのびがよく、弾力があり、子供たちは、「美味しい」と言って食べていました。親子で記念撮影をしたり、祖父母に話を聞いたりしていました。



～特集・収蔵資料から～

「伊豆国人民神奈川県管轄替請願書」と明治初期資料

郷土資料館において近代文書の調査をしてくださっている桜井祥行先生からの調査報告です。桜井先生は、静岡県教育委員会事務局指導主事・伊豆の国市文化財保護審議委員をされています。以下にその調査報告を掲載します。

三島市郷土資料館では、明治初期における伊豆半島全体に関わる資料を所蔵しております。今回はその中でも、標題にもありますように「伊豆国人民神奈川県管轄替請願書」を中心に紹介したいと思います。

江戸時代から明治時代に移行した時は大変世の中が混乱しましたが、伊豆半島は韮山代官の江川氏を補佐していた柏木忠俊の尽力により、韮山県として民生を安定させておりました。その後廃藩置県による統廃合が進み、明治4年(1871)11月に足柄県が成立しました。

足柄県は伊豆半島と小田原以西の現在の神奈川県を含むもので、柏木忠俊が権令(のち県令)として、殖産興業をはじめとして教育の普及等地方行政を切り盛りしました。

安定した治世にもかかわらず、明治9年(1876)3月に足柄県解体が指令され、伊豆半島は静岡県に編入されることになりました。しかしながらその後、相模、伊豆で足柄県復活一揆が起き、足柄県時代を偲ぶ声は耐えませんでした。

本館所蔵の請願書は、明治18年(1885)に提出されたもので、伊豆半島人民の署名を集めたものです。甲乙の2冊にまとめられた請願書には各戸長の署名と押印がされていますが、当時まだ字が書けない人には代筆人が代わって執り行なったことがわかります。

この請願書と近い時代に『増訂豆州志稿』が編纂されていますが、ここに調査された当時の戸数とほぼ同数の署名が請願書に集められていますから、管轄替に並々ならぬ決意が窺われます。

また請願書には各町村の当時の名字がわかりますので、今日の名字のルーツをたどることができます。

提出された請願書は内務卿官房長から却下されましたが、伊豆半島側は神奈川県に編入したい願望をもっていたのに対し、神奈川県側特に小田原を中心とした地域は足柄県を再興したい願望をもっており、両者が統一されていなかったことが実現の運びとならなかったといえます。

その他、本館では、明治23年(1890)に郡制が布かれるまで、田方・君澤・賀茂・那賀の4郡による町村聯合会が明治10年代に機能していた資料も散見されます。今後これら資料の整理をより進めていく予定です。



請願書(甲乙の2冊)



各町村の署名(請願書)



伊豆国聯合会資料(明治10年代)

(さくらい よしゆき/伊豆の国市文化財保護審議委員)

刊行予定案内「三島宿関係史料集1(河合家文書)」

本史料集は、明治初期まで三島曆師として活躍した河合家の所蔵する文書の中から「御用留」を解説したものです。

同家に伝わる文書については、平成3・4年に静岡県教育委員会が行った三嶋大社関係古文書調査事業により調査整理されており、その内容については「三嶋大社関係文書目録」(平成5年)中の「五 河合家文書」に詳しく紹介されております。大別すると「文書之部」「和歌典籍之部」「版木之部」「版木(曆以外)之部」「曆之部」の5つに分かれており、本書に収められた「御用留」を始め、三嶋曆師の変遷や頒曆の様子、江戸幕府との関係などを示す重要な資料が残されております。



『御用留(天保～嘉永)』

本史料集には、「河合家文書」より次の2点の史料を取っています。

- (1)「御用留」(天保十二年<1841>六月八日)

懸帳一冊。河合隆定記。本史料は天保期の他曆流通の差し止め願いに関する御用留。

- (2)「御用留」(天保～嘉永)

横半帳一冊。河合隆定記。新曆献上に関する御用留。

※なお、平成19年4月中旬より頒布を開始する予定です(頒価未定)。

寄贈資料紹介

平成18年12月から平成19年2月に、次の方々からご寄贈のご協力をいただきました。

ありがとうございました。(50音順・敬称略)

- | | |
|-----------|--|
| 飯塚 兼吾 三島市 | クサ・ワラ切断機 1点
麦土入れ機 1点 |
| 勝俣あい子 三島市 | 第一期種痘済証 2点
懐しの流行歌集 1点
花嫁花婿必要帖 1点
禮儀と作法 完 1点
体力手帳 1点
妊産婦手帳 1点
特別衣料切符交付申請書 1点
衣料切符 10点
衣料切符(中途) 2点
ジフテリア予防接種済証 1点 |

- | | |
|-----------------------|--|
| 高村 武義 三島市 | 以呂波加苗多 1点
尋常小書キ方手本 1点
尋常小学唱歌 1点
尋常小学終身書 卷一 1点
尋常小学読本 卷一 1点
尋常小学読本 卷二 1点 |
| 坪井 茂 伊豆市 | 小出正吾自筆原稿 1点
五所平之助自筆原稿 1点 |
| 松浦 修 調布市
渡邊 美幸 三島市 | 玄峰書 1点
冬休みの友 1点
ナツヤスミノトモ 1点 |



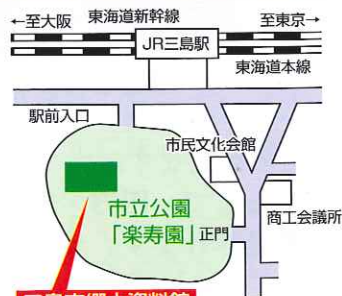
▲懐しの流行歌集 他



冬休みの友▶ 他

利用案内

- 休館日
毎週月曜日
(祝日の時は翌日)
12月27日～1月2日
- 開館時間
午前9時～午後5時
(4/1～10/31)
午前9時～午後4時30分
(11/1～3/31)
- 入館無料
(ただし、楽寿園入園の際に有料)



- 三島駅(南口)から徒歩5分。
市立公園楽寿園内

郷土資料館だより vol.29 No.3(第87号)

発行日 平成19年(2007)3月31日
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館
〒411-0036
三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 055-971-8228
FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
URL: <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>
発行 三島市教育委員会